筑 波 大 学 附 属 大 塚 特 別 支 援 学 校
School for Mentally Challenged at Otsuka,University of Tsukuba

実践事例の紹介 － 高等部「職業科」・中学部「作業学習」 －

○杉田葉子　　菅野佳江

1. 中学部「作業学習」単元名「手順通りに清掃しよう（机拭き）」

文責：菅野佳江

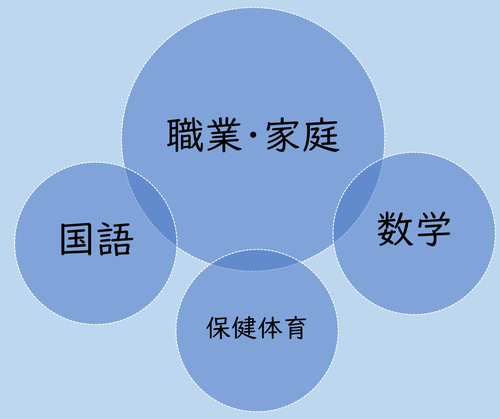
（1）単元概要

（2）指導の流れ

学習形態	授業時数	実施時期
サービス班	29時間	9月～12月

次	1	2
小単元名	机拭きの作業手順を覚えよう	手順通りに清掃しよう（机拭き）
活動内容	手順書の通りに、手本を見たり、具体的な動作を練習したりして、決められた作業手順でハンドモップや布巾を扱い、作業を進めていくことを覚える。	作業手順（ハンドモップを用いた机拭き）を忘れても、手順書を見て確認したり、周りの友だちの様子から作業手順を思い出したりしながら、作業に取り組む。また、道具の準備や片付けについても、指示書等を生徒が自主的に確認して行う。始めの会では、作業日誌を通して、全体目標の他に、働く態度につながる個人目標を立て、終わりの会で、目標をもとに振り返る。

〈各教科等を合わせた指導〉
※サービス班の場合



中学部における作業学習は、各教科等を合わせた指導として設定をしている指導形態である。3つの作業班「サービス班」「クラフト班」「クロスワーク班」があり、共通して「職業・家庭」「国語」「数学」を合わせていると定めた。サービス班においては、清掃作業に取り組む上で、清掃をする意義についても取り扱うことから、保健体育との関連を追記した。また、自立活動における個々の目標について指導を行う重要な指導形態と考える。

2. 高等部「職業科」単元名「カフェサービスの仕事を知ろう」

文責：杉田葉子

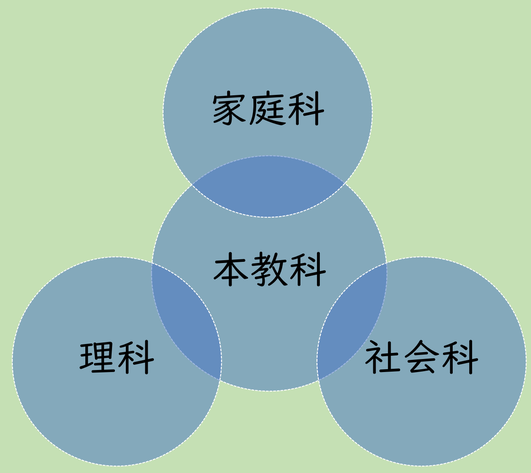
（1）単元概要

（2）指導の流れ

学習形態	授業時数	実施時期
カフェサービス班	52時間	4月～7月

次	1	校外学習	2	3
小単元名	作業手順を覚えよう	カフェ店を見学しよう	カフェ販売をしよう	
活動内容	安全面や衛生面について重要性を知り、手洗いや身支度の方法や手順を確認する。	実際にコーヒー豆の販売店やカフェの店舗を見学し、店員として必要なことについて気付いたことを発表する。	製菓、包装、清掃、販売等、カフェサービスを行う上で、必要な知識や技能を実践を通して身に付ける。	販売活動を通して、挨拶や言葉遣い、姿勢、お金や品物のやり取り等、必要なコミュニケーションスキルを実践する。

〈他教科との関連〉



職業（作業）では、作業種によって違いがあるが、カフェサービス班においては、作業上の特徴から家庭科や社会科と関連を持たせて学習をすることで、食品や調理用具の安全と衛生に留意することや、衣類の選択や手入れ、また消費生活に結び付けて学習を深めることができると考える。
また、理科については、取り扱う単元によって、本教科と関連させることができると考える。

高等部「職業科」他教科との関連

文責：杉田葉子

（1）単元概要

学習形態	授業時数	実施時期
理科（3G・全体）	11時間	4月～7月

学習形態	授業時数	実施時期
社会（高3）	9時間	9月～12月

（2）指導の流れ

高等部の職業（作業）では、3つの作業班で学習をしている。今年度から『えがおカフェ』が校舎内にオープンするにあたり、職業（学年）の時間に交代でカフェ運営を通して、生徒全員がサービス業について学習する機会を設定している。
理科では、植物の成長について学ぶ中で、コーヒーも植物の種子を原材料としていることを学んだり、社会では、お金の歴史や流通について取り上げることで販売活動の理解につなげたりすることをねらいとした。

次	1～3	校外学習
単元名	植物の成長について知ろう	
活動内容	植物は種子の中の養分を基にして発芽することを観察や実験を通して確認する。	実際に園内の植物を観察し、様々な植物に興味を持ち、気が付いたことを発表する。

次	1	2・3
小単元名	経済・消費～物の流れと色々な仕事～	
活動内容	私たちの暮らしに必要な物は、社会で働く人々の分業によって生産されていることを確認する。	産業に関わる人々が生産性や品質を高める工夫について確認する。

※本実践は文部科学省研究開発学校指定の研究活動の一部として、2024年度の実践をまとめたものです。